

さんSUNひろば VOL・15

北海道看護協会 第3支部

働き続けられる職場づくり

推進委員会主催研修会

2018年9月29日(土) 新札幌アーケ
シティホテルにて「本当のこと知って
いますか?ハラスメント」と題しまして研
修会を行いました。

講師にY-P l a n 青盛真知子先生を
お招きし、ハラスメントの種類・対応に
ついてご講演頂き、最後にシナプソロジ
ー(脳活性化プログラム)で身体を動か
しました。

北海道胆振東部地震が起こり、混乱も残
る中での開催でしたが、52名の参加があ
りました。アンケートからは「ハラスメ

ントについての再認識できた」「自分の言動にも気をつけたい」と80%の方から今後役に
立ちそう・参考になったという感想をいただきました。

ハラスメントについての理解も深まり、身近な問題として職場でのスタッフや患者様との関わり
方の参考となる研修になりました。

札幌第3支部 働き続けられる職場づくり推進委員長

市川 真紀



広報委員より

ハラスメントとは、受け手の問題であり一言で「いやがらせ」という意味の事。ハラスメント
の種類には30種類もあり、パワハラ上司4タイプの説明を聴き振り返るとともに今後役に立



ていきたいと思いました。また「職場のハラスメントと対応の考え方」や「今日から役立つ脳のお話し」を聴かせて頂いたり、身体を動かして脳を活性化させることを参加者みんなで行ったりとても楽しい研修でした。講師の方、準備された委員の方々ありがとうございました。

＊田中 記＊

教育委員会主催研修会



2018年10月11、12日に「看護過程と看護記録」研修会を開催しました。毎年定員を超える数の参加希望があり、昨年はグループワークの人数や助言者を増やして対応しましたが、今年は定員40名で制限しグループワークの質を優先する形で開催しました。

初日基調講義は、北海道科学大学の武田かおり先生から、現場で敬遠されやすい看護過程について実際の記録事情を踏まえながらお話し頂き、参加者の反応は自施設に活かせる内容だったと大変好評でした。グループワークも他施設の事情や意見が聴く事ができたため、満足度の高いワークだったとのことです。次年度も開催予定ですので是非ご参加下さい。

教育委員長 大場 朝宏

＊広報委員より＊

2018年10月11・12日、北海道看護協会で「看護過程と看護記録研修会」が開催されました。道内各地から40名の方が参加され、1日目は札幌第3支部長 高橋由美講師より「看護師の動

向」について、北海道科学大学保健医療学部看護科 武田かおり講師より「看護過程と看護記録」についての講義が行われました。2日目は、参加者が各自課題を提示し、終日グループワークが行われました。所属施設は異なり、年齢層も幅広く問題解決に向けて様々な意見交換が行われていました。特に慢性期看護や在宅看護に於いては、個別性を重視したアセスメント、看護計画立案、記録に対しての難しさを感じている症例も多い現状を知る事ができました。自分自身、参考になる意見も多々ありとても貴重な研修会になりました。

研修会に参加された皆様、講師、助言者の皆様お疲れ様でした。

辻 記

助産師職能委員主催研修会



2018年10月13日に読売北海道ビルACU-Yで、札幌第4支部合同助産師職能研修会をおこないました。午前はCloCMip®関連研修「子宮収縮剤の使用と管理について」、午後はCloCMip®関連研修「分娩期の胎児心拍数陣痛図（CTG）について」という内容で、北海道大学病院 産科・周産母子センターの森川守先生に講師をして頂きました。

基礎知識についてだけでなく、産科ガイドラインの内容を一つ一つ解説して頂いたり、また実際のCTGをみて、どのように所見を判断するかなど明日からすぐ現場で活用できるような内容の研修となりました。アンケートの結果などをふまえて、今後も学びの多い研修会を企画していきたいと思っております。

助産師職能委員長

伊藤加奈美

広報委員より

札幌4支部合同助産師職能研修会・交流会が10月13日(土)読売北海道ビル3Fに於いて開催されました。講師は北海道大学病院産科・周産期母子センター森川 守先生。午前のテーマは「子宮収縮剤の使用と管理」で専門分野に特化した内容でした。基礎知識から使用管理までをわかりやすく講義して頂きました。本研修は助産師クリニカルリーダーⅢの研修生に必要な講義として、又日々の現場で使用している薬剤についても詳しく、実践にいかされる内容での講義でしたので、助産師の方々の関心の高さが感じられ、多くの参加がありました。講師の森川先生、研修に参加されました皆様、お疲れ様でした。

白浜 記



保健師職能主催研修会

東京オリンピックを2年後に控え、様々な課題も残っている日本。パラアスリートとして10数年活動している堀江航氏を招き講演会を行いました。大学時代バイクの事故で左足を切断、サッカーを諦めプロの車椅子バスケットボール選手として各国で活躍。帰国後はパラアイスホッケー選手として平昌オリンピックに出場、柔術でも健常者と肩を並べ入賞するなど活動の幅をさらに広げています。

「地域包括ケア」「共生型社会の実現」をコンセプトとした今回の講演でしたが、看護職は様々なバックグラウンドをもつ方々と接するにあたり色々な引き出しを持つ

必要があります。左足を失い義足となったがどうやって克服したかという質問に、彼は「足がないと、これからサッカーが出来なくなると思ったくらい。元々ネガティブなイメージがなかった。今はこれが自分の武器」と答えていました。

前向きというよりそれが彼にとって自然な事だったのです。日本と世界のパラスポーツの現状のギャップを知ったと同時に「障害者福祉」の従来の考え方をそろそろ我々も大きく見直す必要がある事を感じました。誰もが自分らしく生きること、スポーツが果たす役割はその部分で結構大きいのではないかと感じた講演でした。



保健師職能委員長

町田丸美

広報委員より

札幌4支部合同保健師職能研修会 テーマ「パラアスリー
トの軌跡 東京2020 おもてなし・実は裏あり」が10月
20日ANAクラウンプラザホテル札幌にて開催され
ました。堀江航氏を迎え、たっぷり2時間の講演をし
て頂き、ご自身が足に障害を負った経緯やその後も多
くのスポーツと関わり輝かしい実績を残され、2018年
はピョンチャンパラリンピック出場、スポーツのみに
とどまらずドラマの監修、紹介しきれないので経歴はイ
ンターネットで確認して頂きたいと思います。

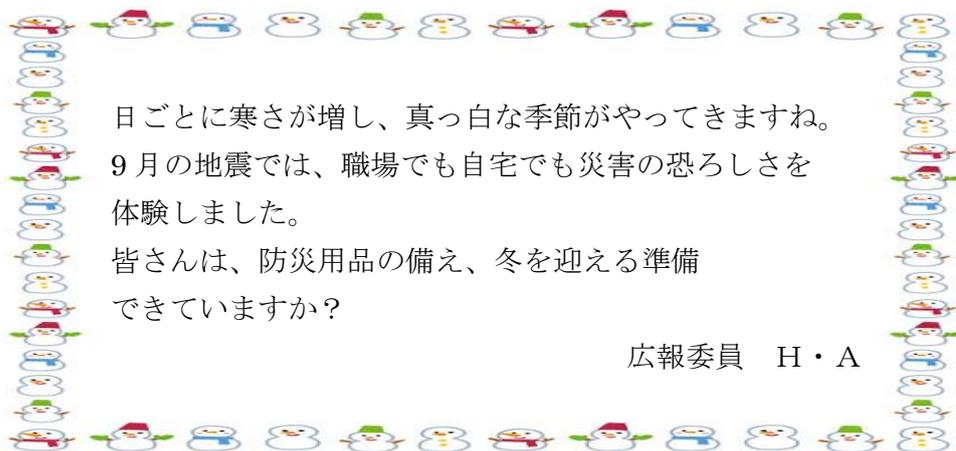


この日研修会場に集まったすべての方が、堀江氏からとて
も元気をもらったのではないのでしょうか。そして「障害は何ともないんだ」体の部分の問題じ
ゃなく「障害は誰もが持っている」、障害をネガティブに捉えず常に挑戦し続ける姿に、そして
「足が亡くなってラッキーです、こうして札幌に講演に呼んでもらえる」とすべてのピンチを
チャンスに転換する思考は、周りの人々に元気と勇気を下さったと思います。1日中爽やかで
心がほかほかした気持ちになりました。

参加された皆様、お疲れ様でした。

白浜 記

編集後記



日ごとに寒さが増し、真っ白な季節がやってきますね。
9月の地震では、職場でも自宅でも災害の恐ろしさを
体験しました。
皆さんは、防災用品の備え、冬を迎える準備
できていますか？

広報委員 H・A